



## なぜ参観日をするのか（2）

参観日の目的は、自分の子どもの理解に加え、学校教育や教師・子どもの理解をしてもらうことです。授業の中で子どもたちが学び合う場面があり、自分の考えをぶつけあって知識・技能や思考力を身につけていきます。あるいは、子どもが考えてみたくなる課題設定を教師が準備して、やる気に火をつける場面があります。そうするうちに子どもの方から新たな疑問を出して課題を見つける授業が生まれることがあり、主体性を身につけていきます。こうして子どもたちの活動や教師の授業力を見ることで、教師や子どもは親御さんから信頼されます。

授業参観の折に、子どもの絵や書を見てもらうことがあります。理科や社会科で作った〇〇新聞など学習のまとめの掲示もあります。子どもの作品を見れば、一人ひとりが課題に対して精一杯取り組んでいることがわかります。学校では日常の授業に加えて、学習の成果を見る音楽会や発表会や運動会があり、そこでも子どもたちの成長が見て取れます。展示や発表は、家庭ではできないことであり、学校の教育力を知ってもらっています。私は担任をしていた時、参観日が大好きでした。子どもや教師の足りないところも含めて理解してもらいました。子どもの頑張りを親御さんたち皆さんで見て、共に喜んでおられました。うまくいかないことがあると、「先生、頑張っ。」と励ましてもらうこともありました。

親御さんは、家庭で子育てのエネルギーを費やしています。子どもが成長して社会で活躍することを願い、体を養い、心を育てることや学力をつけることに力を注ぎます。以前、子どもを転校させることになった親御さんが、私にこう言われました。「うちの子どもはあいさつにしても勉強にしてもよくできるようになりました。先生、学校というところは有難いところです。妻も私もうちの子どもに対して特別な教育は何もしませんでした。教育は学校にお任せして、こうやって勉強が好きになり、友だちが好きになりました。学校のおかげです。」・・・その子どもは朝出会うと、「今日の朝ご飯は〇〇でした。おいしくて食べすぎました。」と話すような子でした。親御さんは特別な教育をしなくても、ご飯をおいしく食べることや早起きは気持ちのいいことだと家庭で教えておられました。おそらく、親御さんのエネルギーを10とすると子育てに使うのは1か2と小さくて、それで学校のおかげだと言われたのでしょう。参観日にはお母さんが来られ、お父さんはお母さんからと子どもの様子を聞いておられました。月1回のあいさつ運動にはときどきお父さんが参加されて、登校する子どもにあいさつをされていました。両親が我が子に向けた子育てのエネルギーの一部を、参観日やあいさつ運動という学校教育や教師・子どもに対する理解に割り当てていたのではと思いました。学校教育に目を向け、そこに力を注ぐことで、学校がよくなれば我が子も隣の席の子もよくなります。

学校は、親御さんに学校教育や教師・子どもに対する理解をしてもらうことでよくなっていきます。親御さんの子育てのエネルギーを学校・教師・子ども理解に割り当てていただくことで、教師は思う存分子どもに力を注ぐことができます。